

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の 방법으로評価点検とその改善に努めてまいりました。

令和元年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 令和元年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会をはじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理能力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

（４）法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

作成者:中澤泰吉

作成日:2020年4月30日

サンプル数(評価数値の分布合計):52

(1). 教育理念・目標

評価項目	評価数値の分布				
	適切…5	ほぼ適切…4	どちらでもない…3	やや不適切…2	不適切…1
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	41	10	1	0	0
②学校における職業教育の特色は明確になっているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	42	8	2	0	0
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	39	9	4	0	0
④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	35	13	3	1	0
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	36	12	4	0	0

(1)課題

評価の平均は5段階中の4.6、「適切・ほぼ適切」の評価割合は94%であり、全体として概ね妥当との評価であった。

(2)今後の改善方策

現状の評価は全体として妥当なものとなっている、ビジネスの現場で必要となる能力は時代の要請により刻々と変化するため、今後も実践的教育を目指す専門学校として、指導内容の更新に常に積極的に取り組み、様々な方策を検討することとする。

(3)特記事項

学園の教育理念・目標は様々な媒体で公表されており、人材育成像も明らかになっている。また、学園の主要な教育目標である学科の専門教育は、各種資格試験や公務員試験の高い合格率により成果を上げている。

当学園は下記の2点を教育目標として掲げ、この教育目標実現のため、毎年運営計画書を作成し、明確な方針と目標に則った学園運営を行っている。

①早期大人化教育

「精神的にも経済的にも独立した生活ができる意識」と「社会やクラスの形成者としての自覚をもつことができる意識」の養成。

②学科の専門教育

将来の夢の実現に向けて、「資格試験や公務員試験に合格する能力」と「就職・独立開業に必要な能力」の養成。

この教育目標の早期実現のため、教職員・学生・クラスの3者の能力を工夫活用し、健全な国民としての学生を育てることを本校の教育方針として定め、各学科で目指す業界人像を定義し、学生から引き出す能力を明確にしている。また、これらの能力を養成するために、専門科目の教育と学園独自の検定試験制度とを組み合わせた指導を継続している。今後もこの教育への取り組みをさらに強化し、レベルアップを目指していく。

(2). 学校運営

評価項目	評価数値の分布				
	適切…5	ほぼ適切…4	どちらでもない…3	やや不適切…2	不適切…1
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	38	13	1	0	0
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	38	14	0	0	0
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	34	16	2	0	0
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	38	13	0	1	0
⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	36	13	2	1	0
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	37	11	3	1	0
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	43	7	2	0	0
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	24	26	0	2	0

(1)課題

評価の平均は5段階中の4.6、「適切・ほぼ適切」の評価割合は96%であり、全体として概ね妥当との評価であった。

(2)今後の改善方策

平成28年度より導入された学生管理システムの運用が定着したことにより、課題となっていた「⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか」の評価項目については大幅な改善が見られた。これは、入学手続、成績処理、学費納入などの事務処理において総合的な管理の効率化が可能となった成果であると考えられる。また、本年度より就職管理システムを学生自ら行動記録を入力する方法へ大幅な運用の見直しをしたことにより、教職員の負担軽減を図っている。

(3)特記事項

「働き方改革関連法」の施行を踏まえ昨年度において「学園諸規則」の大幅な見直しを実施した。これにより人事、給与、業務規程等に関して、時代にマッチした合理的で妥当なものとなっている。

教育活動等に関する情報公開については、専門課程総合案内書、学園ホームページにて積極的になされている。また、財務情報、自己点検評価、学校関係者評価については文部科学省のガイドラインに従って適切に公開されている。また、学園理事会・評議会は年間事業計画に従って適時に開催され、学校運営状況は適切に報告、承認されている。

IT活用委員会、IoT活用委員会を設置しiPadを駆使した新しい教育方法の開発を行っている。

(3). 教育活動

評価項目	評価数値の分布				
	適切…5	ほぼ適切…4	どちらでもない…3	やや不適切…2	不適切…1
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	40	9	3	0	0
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	42	8	2	0	0
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	39	11	2	0	0
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	34	16	2	0	0
⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	36	12	4	0	0
⑥関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	30	17	4	1	0
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	30	20	2	0	0
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	38	11	3	0	0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	38	13	1	0	0
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	41	10	1	0	0
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	29	20	3	0	0
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	25	23	4	0	0
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	30	17	5	0	0
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	27	23	2	0	0

(1)課題

評価の平均は5段階中の4.6、「適切・ほぼ適切」の評価割合は95%であり、全体として概ね妥当との評価であった。

(2) 今後の改善方策

教育制度改革が進む中、専門学校においても著しく変化する環境に対応可能な人材の育成は継続的な課題である。当校は会計士、税理士、ビジネス、公務員、医療と多くの異なる分野での教育展開をしていることから、教員に要求される技能、知識も多岐に渡り、教育研修も共通化することが難しく、職員個々の研鑽に偏る部分が大きくなっている。平成28年度より継続して実施している自己研鑽計画は、学園が求める職務能力を勤続年数に応じたポイントとして明確にするものであり本年度も全教職員の進捗状況調査を実施し、全体的な職務能力の底上げが確認された。職員全体のさらなる能力アップに向けて、この取り組みを今後も着実に続けていく。また、優秀な教員の採用とともに、オンデマンド授業の活用などにも力を入れていく。

(3) 特記事項

職業実践専門課程の認定学科である公認会計士・税理士科、経営ビジネス科、医療事務科、情報処理科、公務員科については引き続き、教育課程編成委員会での議論及び提言を踏まえて、カリキュラムの定期的な見直し、職業実習体験の積極的導入等を続けていく。

(4). 学修成果

評価項目	評価数値の分布				
	適切…5	ほぼ適切…4	どちらでもない…3	やや不適切…2	不適切…1
①就職率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	41	10	1	0	0
②資格取得率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	38	10	4	0	0
③退学率の低減が図られているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	28	21	3	0	0
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	24	21	7	0	0
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	26	20	5	1	0

(1)課題

評価の平均は5段階中の4.5、「適切・ほぼ適切」の評価割合は92%であり全体として概ね妥当との評価であった。

(2)今後の改善方針

「退学率の減少」については継続的な重要課題として担任を中心とした個別面談の実施、担任、授業担当者、部署責任者間での情報共有などを行うことによって積極的に取り組んでいるのであるが、経済環境の要因も関係することが多く、昨年度は満足できる結果を得ることができなかった。今年度はさらなる改善を目指し、教職員全員で問題発生の予防または発生した場合の早期解決に努めるものとする。

卒業生との接触の方法や機会の増加に関しては就職サポート室担当者による就職先企業訪問、卒業生アンケートの回収といった地道な取り組みを今後も継続すると共に、就業状況の調査、職場変更等も把握する新たな方策も職員会議等にて議論を重ねていく予定である。

なお、業界の企業・団体で活躍するOB・OGによる職業講演の機会を設けてきたが、これらの取り組みは在校生の将来の職業への具体的なイメージを得られる効果も高く、今後もより推進する予定である。

(3)特記事項

名古屋大原学園は学生の卒業後のセルフマネジメント能力向上のため、学生手帳を利用した自己管理能力養成の取り組みに継続的に取り組んでいる。この取り組みは、難関試験の合格率向上に大きな成果を上げている。

(5). 学生支援

評価項目	評価数値の分布				
	適切…5、ほぼ適切…4、どちらでもない…3、やや不適切…2、不適切…1				
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	43	8	1	0	0
②学生相談に関する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	36	13	3	0	0
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	42	8	2	0	0
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	27	22	2	1	0
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	33	15	3	1	0
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	33	14	3	2	0
⑦保護者と適切に連携しているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	32	17	3	0	0
⑧卒業生への支援体制はあるか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	27	21	3	1	0
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	35	13	4	0	0
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	36	11	5	0	0

(1) 課題

評価の平均は5段階中の4.6、「適切・ほぼ適切」の評価割合は94%であり、全体として概ね妥当との評価であった。
 なお、評価項目のうち「④学生の健康管理を担う組織体制はあるか」項目については保健設備、人員の充実、健康管理を担う組織体制の整備を求める意見があった。

(2) 今後の改善方策

当校は従来よりクラス担任制を採用し、その長所を活かした学生に対する生活全般へのきめ細かな指導を実施してきたのであるが、昨今問題となっているメンタル面の問題を持つ学生の増加による担任の業務量の増加が課題として表面化している。今後も担任制は継続するが、配慮を要する学生対応については部署責任者、校長も常に担任と情報を共有することにより、学校全体で問題解決に当たる体制とする。
 2020年4月から高等教育機関における修学の支援のための取組として、入学する新入生や在学学生を対象とした給付型奨学金の支給や授業料・入学金の減免措置が行われることになり、当校は、「高等教育の修学支援新制度」の認定校となった。
 また、学園独自の学費分納制度、学費の一部を減免する奨学生制度は、入学を希望する学生や保護者、高等学校から高い評価を受けている。

(3) 特記事項

課外活動に対する支援としては昨年度に成果があった以下の施策について今年度も引き続き取り組みを強化する。
 ・課外活動とし、野球部・サッカー部・卓球部・吹奏楽部等を引き続き支援し、募集活動への相乗効果も図る。
 ・卒業生に対する個別の再就職相談や生涯教育のサポート制度を拡充する。
 ・高等学校と連携し、キャリア教育、職業教育のサポートを実施する。

(6). 教育環境

評価項目	評価数値の分布				
	適切…5、	ほぼ適切…4、	どちらでもない…3、	やや不適切…2、	不適切…1
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	32	17	3	0	0
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	31	15	6	0	0
③防災に対する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	31	16	5	0	0

(1)課題

評価の平均は5段階中の4.5、「適切・ほぼ適切」の評価割合は91%であり、全体として概ね妥当との評価であった。

(2)今後の改善方策

昨年度の自己評価では照明設備などの一部に更新の遅れを指摘する意見もあったが、全館のLED照明化工事などを実施し、問題点は概ね解決された。既に対応済の全館Wi-Fi環境、全教室プロジェクター設置、全学生に配布したタブレット型端末を利用したペーパーレス化講義と遠隔授業の推進等、積極的な投資と快適な教育環境の整備に今後も務めて行く。
防災への取り組みとして昨年度は名古屋市主催の防災図上訓練の参加、愛知シェイクアウトへの全学生の参加、全職員を対象とした救急救命講習を実施し一定の効果を得た。次年度もこの取り組みを継続する。また、学生に対しては定期的に学生便覧にある地震時対応マニュアルの再確認を行い、教室内での適切な行動や避難経路及び方法の周知を行う。

(3)特記事項

本校は名古屋駅周辺地区都市再生安全確保計画に定める大規模震災時の帰宅困難者退避施設に指定されている。また、名古屋市災害対策備品等の分散備蓄所として食糧等資材の備蓄を受け入れている。今後は年次計画に従って退避施設運営ガイドライン等の作成が進められる予定である。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価数値の分布				
	適切…5	ほぼ適切…4	どちらでもない…3	やや不適切…2	不適切…1
①学生募集活動は、適正に行われているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	44	8	0	0	0
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	44	8	0	0	0
③学納金は妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	44	8	0	0	0

(1)課題

評価の平均は5段階中の4.8、「適切・ほぼ適切」の評価割合は100%であり、妥当との評価であった。

(2)今後の改善方策

益々進行する18歳人口の減少を踏まえ、学生募集は今後も大きな課題とし全教職員が危機感を持って対策に取り組み続けなければならない。外国人留学生の受入れ拡大、大学・短期大学の既卒者、キャリアアップによる転職希望者等も幅広く受入れる工夫と研究を今後も続けて行く。

(3)特記事項

学内に設置された広報部会において今後の需要ニーズを考慮しながら検討を継続し、入学希望者のニーズに合った学科・コースの企画提案を継続して検討し、効果的な募集を心掛ける。

学生に対する経済支援策として、公的な「高等教育の修学支援新制度」の認定を受けると共に、学園独自の学費分納制度、学費の一部を減免する奨学生制度の充実も図っている。利用する学生も年々増加傾向にあるため今年度も継続して力を入れていく。

「体験入学会」「夏休み体験入学会」「学校説明会」「保護者説明会」「AO入学説明会」「大学生・大卒者 キャリア進学説明会」を、年間を通じ毎月開催している。

(8). 財務

評価項目	評価数値の分布				
	適切…5	ほぼ適切…4	どちらでもない…3	やや不適切…2	不適切…1
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	41	9	2	0	0
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	44	6	2	0	0
③財務について会計監査が適切に行われているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	45	6	1	0	0
④財務情報公開の体制整備はできているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	43	7	2	0	0

(1)課題

評価の平均は5段階中の4.8、「適切・ほぼ適切」の評価割合は97%であり、全体として妥当との評価であった。

(2)今後の改善方策

財務内容については借入金のない健全な財務状態となっている。理事会・評議員会において、予算・収支計画の立案及び承認が適切に行われ、財務に関する会計監査及び税務監査は適切に行われている。また、学園全体の財務情報もホームページに公開されており財務情報の公開も適正である。

(3)特記事項

財務情報については「財産目録等の閲覧について」の規程を整備し、財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書は、学校HPや閲覧による情報公開の場を設けている。

(9). 法令等の遵守

評価項目	評価数値の分布				
	適切…5	ほぼ適切…4	どちらでもない…3	やや不適切…2	不適切…1
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	44	6	2	0	0
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	43	7	2	0	0
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	41	9	2	0	0
④自己評価結果を公開しているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	44	6	2	0	0

(1) 課題

評価の平均は5段階中の4.8、「適切・ほぼ適切」の評価割合は96%であり、全体として概ね妥当との評価であった。

(2) 今後の改善方針

本学園は専修学校設置基準に照らして適正な専任教員を配置し、学園学校運営計画書に基づき各部署間の役割分担と連携を取りながら、日々の業務に取り組んでいる。今後も教職員向けの啓蒙活動を継続すると共に、学校法人立の専修学校として引き続き法令遵守に努めることとする。特に入社年数の浅い教職員への研修や定期的な勉強会を企画していく。

(3) 特記事項

昨年度において学園諸規則の改訂を実施し、学園が定める「個人情報取扱規則」について外部委託管理のセキュリティ強化規定の追加など、多くの見直しを行った。今後も教職員が遵守するように、朝礼や研修における啓蒙を継続する。当校に所属する教職員全員に対して自己点検・自己評価を年度末の3月に実施し、評価結果に基づき改善を行うとともに、学園外部に対しては、学校自己点検評価結果を学園ホームページで積極的に公開している。消防計画、学校安全計画を整備し、防火管理者を定めて教職員の役割担当を明示している

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価数値の分布				
	適切…5、ほぼ適切…4、どちらでもない…3、やや不適切…2、不適切…1				
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	38	11	3	0	0
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	31	20	0	1	0
③地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	適切	ほぼ適切	どちらでもない	やや不適切	不適切
	40	11	1	0	0

(1)課題

評価の平均は5段階中の4.7、「適切・ほぼ適切」の評価割合は97%であり、全体として概ね妥当との評価であった。

(2)今後の改善方策

ボランティア活動の依頼や関連情報は年々増えているものの、専門学校の学習スケジュールは大学などと比較しややタイトなため、ボランティアへの参加可能時期が限られ、学園としてどのように活動を活性化させるかについては継続的な課題となっている。本年も学内掲示スペースでのボランティア募集の紹介を行うとともに、学生自らの創意工夫による自主的な取り組みを奨励する。

地域貢献については本年度も、駅前立地の利便性を活かし、専門課程の授業が行われない週末に各種資格試験や講演会等の会場として教室の貸し出しを中心として積極的に行う予定である。

(3)特記事項

大規模災害時の帰宅困難者、近隣住民の方への地域支援として、災害時の臨時避難場所として校舎の提供を予定している。